

湧心館高等学校（通信制） 平成29年度学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>1 本県の「教育指導の重点」及び「取組の方向」を基本に据え、校訓「自主」「責任」「創造」に則った教育実践を行う。</p> <p>2 全日制・定時制・通信制各課程の単位制の特徴を生かした多様な学びの中で、生徒が、自己の特性を明確に自覚し自己実現していく態度を育成する。</p> <p>3 熊本地震を経験した生徒の学習意欲及び防災意識の高揚と、地域と一体となった災害時の連携体制を進める。</p>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>1 確かな学力を育成し、自己実現を図る態度を育む</p> <p>(1) 主体的・対話的で深い学びの中で、思考力、判断力、表現力を育む。</p> <p>(2) 学習習慣を身に付けさせ、教育的ニーズに応じた個別支援を行う。</p> <p>(3) 望ましい勤労観・職業観を育成し、個に応じた進路指導を行う。</p> <p>2 道徳性と豊かな情操を育む</p> <p>(1) 命を大切にす心と自他の大切さを認める態度を育む。</p> <p>(2) 規範意識を身に付けさせ、善悪を判断し自らを律する力を育む。</p> <p>(3) 我が国の伝統と文化を尊重する態度とグローバルな視点を育む。</p> <p>3 心身の健康を自己管理する態度を養う</p> <p>(1) 正しい食習慣と生活習慣を身に付けさせる。</p> <p>(2) 運動に親しむ態度を育み体力を向上させる。</p> <p>(3) 危険を予測回避する力を向上させる。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	広報・募集活動の推進	後期入学を含む本校通信制教育のシステム・特色等を周知徹底し、入学生徒数維持を図る	前・後期（新入学・転編入学等）入学者数の現状維持を目指す	・体験入学実施 ・メール配信、HP活用 ・中学校、高校への学校訪問・説明会実施等 ・「図南」を広報誌と位置づけ、適宜配付	B	県立高校、中学校等へ体験入学・学校説明会の案内をメールで送付した。体験入学は、前期・後期各1回実施し、好評であった。特に後期は日曜日実施のため、参加者が多かった。
	生徒の自学自習力及び自主性を向上させる	生徒の自学自習力及び自主性を向上させる	全体の進級率を7割以上とする	・担任面談、生徒相談徹底、学習支援充実 ・学年集会の実施・進路指導の充実 ・学校情報発信の工夫・改善及び周知徹底	B	4年生の卒業率（見込）は61%であり、全体の進級率は目標の7割にやや足りない見込み（68%～69%）である。
	協力校の教育活動の充実	協力校生徒に対する生徒相談・進路指導・学習支援等の充実を図る	希望する生徒全員の進路実現を目指す 全学年次の進級率を7割以上とする	・ハローワーク活用 ・進路相談充実 ・生徒相談充実	B	概ね目標達成の見込みである。引き続き目標達成に向けて指導を行っていききたい。

学力向上	生徒の自己管理・自己責任による「自学・自習」の徹底（自主・責任）	出席率、レポートの提出率を上げ、進級・卒業率向上につなげる	出席率、レポートの提出率を全教科で前年度比5%増を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会、HP等によるレポート作成支援 ・受講指導・受講手続き時における、生徒への自己管理指導の徹底 	B	レポート提出率2月1日現在で71.7%と、前年度とほぼ同じである。丁寧な指導ができていないが、平日登校できない生徒への対応が課題である。
	学習会の活用推進	学習会の活用により、進級率向上や進路実現につなげる	資格取得率、出席率の前年度比5%増を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・内容及び指導の充実 ・生徒への周知徹底 	B	資格合格率は33%で21ポイント減少、学習会出席率は53%で14ポイント増加した。
	生徒の学力向上につながるICTを活用した授業研究の推進	協力校の生徒を対象とした「遠隔地学習支援」の充実を図る	遠隔地学習支援の運用方法（設備・運用・規程等）の方向付けを行い、次年度以降の実施を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修の充実 ・協力校へのテレビ会議システム運用の試行実施 	C	ICTを活用する職員が増えてきている。テレビ会議システム運用の試行ができなかった。チームをつくり、引っ張るリーダーシップが必要である。
キャリア教育（進路指導）	進路意識・職業意識の向上	入学時から計画的・組織的進路指導を実施、生徒の意識向上を図る	新規の進路決定を必要とする生徒全員を対象とする進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・就職ゼミ、卒業生等による体験講話の実施 ・学年段階に応じた進路指導の実施 	A	就職ゼミ、合格体験発表会、進路説明会、通信制大学説明会など計画通り実施した。卒業学年会を開催し、円滑な進路指導に繋がった。
	体験学習の充実	体験学習を通して、生徒の卒業後の社会的自立支援を行う	進路決定を次年度に控えた生徒全員を対象とした体験学習の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークの活用 ・専門学校での職業体験学習の活用 	B	計画通り実施した。ハローワーク体験、職業体験学習とも参加者がやや減少した。
	進路決定率の向上	進路相談、進路学習指導の充実を図り、生徒の進路実現を支援する	新規の就職・進学率の前年度比5%増を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会による進路学習支援の充実 	B	進学合格率は77%で昨年並み、就職合格率は55%でやや減少しているが、応募者数は増加した。
生徒指導	コミュニケーション能力の向上	行事などへの参加率向上	参加率の前年度比5%増	<ul style="list-style-type: none"> ・行事内容の工夫改善 ・行事開催の周知徹底 	B	クラスマッチは一種目で実施し参加率が向上し、またクラス及び学年の交流の場にできた。
	主体性の向上	主体的に参加できる行事づくり	生徒会役員による行事の企画・運営への積極的な参画	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員の育成 ・行事内容の工夫改善 ・「ゆうつつ新聞」（生徒会新聞）紙面充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内外の行事（定通文化大会、九通研生徒会交流会等）を主体的に運営した。 ・生徒会役員を各学年から選出し、より円滑な活動と行事の充実を目指す。

人権教育の推進	生徒相談・生徒理解の充実	学級の枠を超えて相談できる体制を整備する	全校生徒を対象に、半期2回以上の個人面談を実施し、SC・SSW活用を推進する	・生徒・保護者全員への相談窓口の周知 ・生徒全員の定期的な担任面談実施	A	生徒理解研修を通して職員間の情報交換を行い、生徒への対応ができた。担任がSC・SSWと連携して生徒支援を行うことができた。
	全生徒を対象とした人権教育の推進	人権教育講演会等への生徒の出席率向上	講演会、生活体験発表会等への参加率を前年度以上とする	・内容、方法、生徒への周知等の改善 ・「図南」に特集記事を掲載 ・HP等による広報活動の推進	B	「図南」に特集記事を掲載したり、HPを使った広報活動を行うことができた。講演会では昨年度以上の生徒の出席率が達成できず、今後の改善が望まれる。
	命を大切にすることを育む指導	全ての教育活動における働きかけを通じた、生徒・職員の自他尊重の感覚の育成	人権尊重を基盤にした授業、特別活動等の実施 職員自身の人権感覚と実践力の向上	・啓発資料の発行と活用 ・校外での研修への参加	B	生徒一人一人に行き届いた教育の実践ができた。全職員が校外研修に参加し、自らの人権感覚を磨くことに努めた。
いじめ等の防止等	いじめ等の問題行動の未然防止	全職員による組織的対応	年2回の全体調査と個人面談の実施	・定期的な担任面談、登校指導、巡回指導等	A	全職員の連携で早期解決へ至った。今後も未然防止する体制を維持する。
		生徒・保護者及び職員間の共通理解の向上	生徒と保護者への啓発活動の充実	・生徒と保護者への周知方法や広報内容の改善	B	啓発資料等を活用して周知できた。今後は一層の共通理解の向上を図る。
特別支援教育	インクルーシブ教育に根ざした教育活動の推進	「わかる面接指導・レポート指導」の研究・実践	多様な個性・特性がある生徒に対応できる「わかる面接指導・レポート指導」等の研究実施	・職員研修の推進 ・レポートの改善研究 ・特別スクーリングの周知徹底、スムーズな運用	A	前期と後期に1回ずつ職員研修を行い、ユニバーサルデザインの授業づくりや困り感のある生徒への対応について、共通理解を深めることができた。特別スクーリングの周知、運用もスムーズにできた。
		特別支援教育支援員の活用を含めた学校全体の支援体制の充実	支援対象生徒とその周囲の生徒がともに安心できる環境整備（理解推進・職員への対応力向上）	・職員研修の推進 ・個別の教育支援計画・指導計画の作成と活用 ・保護者・生徒への広報及び周知 ・対象生徒保護者との連携	B	移動教室の支援や生徒との面談等、特別支援教育支援員と連携ができた。SWやSC等とも連携しながら、保護者対応も円滑にできた。個別の支援計画や指導計画を活用した計画的・組織的な支援のあり方について検討したい。

教育課程	「確かな学力」を育む指導・評価	「確かな学力」を育む面接指導、レポート添削、レポート改訂等の研究・改善	アクティブ・ラーニング及びレポート改訂等について研究	<ul style="list-style-type: none"> ・教科別校内研修の実施 ・校外研修への参加 ・他県の情報収集 	A	「レポート改善研修」を実施し、次年度へ向けたレポート作成に取り組んだ。出水中・出水南中・出水南小の授業見学に全職員が参加した。他県の情報は、九通研などで収集できた。今後研究・実践を深めたい。
職員研修	信頼される「通信制」であるために	通信制業務に係る教職員の資質向上	個人の能力向上と業務の協働化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・「通信教育のしおり」「受講指導マニュアル」等に基づいた学習指導 ・分掌（学年、部、委員会）内の情報共有と分掌間の連携 	C	ヒューマンエラーによる事務ミスが見られた。複数チェックの徹底等、ミスを未然に防ぐ態勢づくりが課題である。生徒の課題等が多様化・複雑化する中、分掌間の連携をより一層積極的に進め、早期対応に努めたい。
		教職員として必要な資質の向上	三課程合同研修会（不祥事防止・危機管理等）外部の研究授業等への積極的参加	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修内容の充実 ・校外研修の参加推進 	B	三課程合同校内研修を計画的・体系的に実施した。11月に熊本で開催した「九州地区高等学校通信制教育研究会総会及び研究協議会」に全職員が参加し、先進事例に学んだり情報交換を行ったりすることができた。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	熊本地震の教訓を踏まえた、防災意識の高揚と地域との連携の強化	防災意識の高揚及び地域と一体となった災害時の連携体制の推進	<p>地域と連携を強化した避難所運営の充実</p> <p>生徒・職員の防災対応能力の向上</p> <p>生徒の学校周辺地域に対する関心・理解を深める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の開催 ・学校安心メール登録 ・安全点検、避難訓練等の実施 ・各教科の学習内容に関連した防災教育・総合学習「江津湖散策・清掃活動」 	C	学校運営協議会を4回開催し、地域や行政機関等との連携を進めた。学校安心メール登録率82.3%（1月31日現在）12月に3課程合同の防災避難訓練を初めて実施し、防災士等からの助言を得た。7月から「ぼうさい通信」を発行し、防災意識の高揚を図った。総合学習「江津湖散策・清掃活動」に生徒14人が参加し、地域の自然や文化への理解を深めた。参加者増が課題である。

4 学校関係者評価

- (1) 通信制における生徒募集や学力向上の取組、キャリア教育と進路実績、いじめ防止に向けた取組や生徒会活動等、教育活動全般に関して概ね肯定的な評価が得られた。
- (2) 授業におけるICTの活用に積極的に取り組んでいる。遠隔授業などの先進的な取組については環境整備とチームリーダーの役割が重要である。

5 総合評価

- (1) 思考力、判断力、表現力等を育む学習指導の工夫・改善について全職員で取り組み、目に見える成果として次年度のレポート集の内容改訂を行った。
- (2) キャリア教育に関する計画的な取組等の成果が就職・進学実績に現れている。一方、進路目標の早期設定や試験に向けた十分な準備等、目標達成のための取組をより一層充実させる必要がある。
- (3) いじめの防止、特別な支援を必要とする生徒への支援について、組織的な取組ができしており、安心・安全な学校生活につながっていると評価できる。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 思考力、判断力、表現力等を育む面接指導・添削指導の在り方について、引き続き研究・実践を行い、確かな学力を身に付けさせる。
- (2) キャリア教育のより一層の充実を図るとともに、それぞれの生徒の進路目標や学力に応じた指導を充実させ、進路意識の高揚及び進路希望の実現を目指す。
- (3) 学校行事等特別活動のさらなる充実を図るとともに生徒の積極的な参加を促し、コミュニケーション能力や主体性の向上を目指す。
- (4) 防災教育の一層の充実を図り、学校安心メールへの登録徹底をはじめ、生徒の防災意識の高揚と防災対応能力の向上を目指す。